第45回記念新日美展　受賞の喜び

新日美大賞

絵画部門　増野　喬

私が初めて箔に触れてから二〇年以上経ちます。しかし真剣に向き合ったのは、まだ一〇年くらいでしょうか。

箔には金箔、銀箔だけではなく、色々な金属は勿論、着色箔等、入手することができます。

蒔絵や屏風絵などに使われ、日本の伝統工芸に息づくものではありますが、この魅力ある素材で、私流にどう表現できるのか、苦しみでもありワクワクも致します。

まだまだイメージ力が乏しく、試行錯誤の連続ですが、この新日美で出会った多くの作家様のアドバイスを頂きながら、楽しんで創作していきたいです。

前回の会報で制作意図などを記述した。今回は少し切り口を変えて、制作過程など振り返ってみたい。

最近の小生の作品はマチエールを重視し描く事が多い。マチエールは絵肌と言われ、絵の印象を大きく変化させる。

油彩では絵具を塗り重ねることによって自然と生まれる。マチエールを意図的に作る作家も多い。砂や貝の粉、方解末（岩絵具）などを、絵具やジェッソに混ぜたり、和紙を燃やしたものを張り付けたり、銀紙、金紙を張るなどさまざまである。

山口長男（画家）は自分が納得するまで塗り重ねた。有名なタピオスの「大きな画の×」はコラージュと砂を使って仕上げている。

私の作品の中では、シーラカンスを絵にしたものがあるが、砂や小石を使ってシーラカンスの堅い鱗を表現した。今回の作品は砂をジェッソや絵具に混ぜた。細かい表現よりも、面で描くことを心掛けた。色彩で高原の遅い春を表現した。

これからもマチエールを研究し制作したい。しかしマチエール作りはあくまで絵画制作の手段であり、目的ではない。

お気に入りの一枚　増野喬

［ヨコハマ山下公園
ブラフ18番館］
油彩画　F3

新日美大賞

工芸部門　岩崎　安男

《編み陶について》

今回、受賞致しました「編み陶瑠璃黄火焔型花器」の「編み陶」と言う呼び名は私が使っているだけで、一般的名称ではありません。丁度良い機会ですので、少し編み陶についてご説明させて頂きます。

【編み陶とは】

読んで字の如く、編まれた陶器です。手法としては昔から有った様ですが、その作陶の煩雑さの為か、今では手掛ける人は非常に少なくなって来ております。

【編み陶の作陶手法】

先ずは一定の厚みに整えた粘土板からカッターを使用して一定幅のストライプ状の紐を切り出します。その紐が柔らかい内に紐どうしを交差させて、泥状粘土で固定しながら網目状に編んで行きます。所望の形状が完成したら、従来作陶と同様に乾燥・素焼き・釉薬掛け・本焼きして作品が完成します。

お気に入りの一点　岩崎安男

［編み陶瑠璃角型小物入れ］
工芸　陶芸
13(W)×10(D)×8.5(H)cm

受賞作品

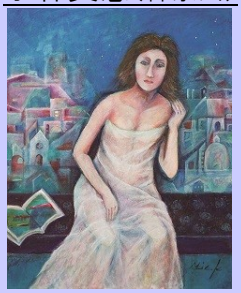
奨励賞
南波采江（静岡）

［夢の香り］
工芸　和紙、画用紙

奨励賞
吉井静子（兵庫）

［瞑―XII］
油彩画　F100

奨励賞
小林美恵（神奈川）



［西陲の夜］
油彩画　F100